

重点目標 (令和7年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲の喚起を目指した授業研究の推進 ・自己有用感、自己肯定感の醸成 ・興味・関心をもつ活動を基盤とした生徒の育成 ・情報発信の充実 ・教職員の多忙化解消と心身の健康の保持増進 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者の連携 ・防災体制の確認と災害時体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校諸行事参加者を増やす。 ・保護者のニーズに合った行事設定する。 ・授業参観を充実させる。 ・大規模災害時に対応ができるように、実戦形式の防災教育を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会・体育祭・文化祭等の行事に保護者が参加しやすい環境づくりに向けて、分掌間の連携を強化して取り組むことができた。バザーについて、来年度も調理場所等について考えておく必要を感じた。 ・授業参観について、全保護者対象には実施できなかったが、登校指導後に施設見学を実施することができた。実施形態や実施時期を検討し、実施に向けて精査していく必要がある。 ・避難訓練として避難経路を使用することはできなかったが、春日井市のハザードマップにて情報提供することができた。大規模災害時に迅速かつ確かな行動ができるよう、より実践に近い方法を検討し、減災に努める。
学習指導 (教務部) (各教科会)	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度及び課題解決能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的な学習手法の研究 ・ICT機器を活用した授業の研究 ・授業規律の確立 ・教育課程の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちラーニング推進事業」において、各教科で学習手法について研究を行い、公開授業によって情報共有を行った。この成果を踏まえ、今後も授業研究を行っていく。 ・ロイノート・スクールやOneNoteなどのICTツールを利用して、生徒が発表や振り返りを行う習慣づけができてきている。今後もICT機器の利用を広げていく必要がある。 ・社会人となるための規範意識について、きめ細かく繰り返し指導を行った。今後はより組織的に指導を行う体制の構築をめざす。 ・次期学習指導要領についての研修を行い、教育課程の方向性について理解を深めた。今後は、教育課程部会の各ワーキンググループにおける議論を注視しつつ、生徒や学校の実態を踏まえ、次期学習指導要領の実施に向けた教育課程の見直しを行っていく。
生徒指導 (生徒指導部)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣や社会人としてのマナーの育成および確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣を身に付けさせる指導を行う。 ・挨拶、遅刻、交通安全の三つを重点とした指導を行う。 ・人権を考慮した校則を見直す。 ・いじめを許さない環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻する生徒に対し、社会人になる心構えとともに、基本的生活習慣の大切さについて声掛けを行った。 ・可能な範囲で、登校時の昇降口で生徒に挨拶・声掛けを行った。 ・生徒一人一人の個性や特性に合わせた声掛けを心掛けた。 ・校則の見直しには至らなかった。今後、個人持ちタブレットなどの校則の見直しについても考えていく必要がある。 ・いじめの早期発見および早期対応を心掛けた。必要に応じていじめ対策委員会を臨時で開き、関係各所と対応を協議した。 ・時代に合わせた生徒指導ができるよう、校内・外の研修を活用していく必要がある。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通じての系統立てた進路指導の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導目標と指導手順を明確化する。 ・進路全般について、十分な事前把握と情報共有をする。 ・内規、資料(キャリアパスポート、進路の手引き等)の活用をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次から目的に沿った企画を策定し、系統立てた進路指導を行った。職員間の共通理解を図り、生徒(保護者)へ十分周知することができた。 ・進路の手引き(キャリアパスポート)を活用し、進路希望状況を把握する中で、進路指導・進路相談を実施した。 ・進学・公務員希望者の進路指導体制を、学年・共通教科教員と連携し指導することができた。 ・学科改編に係る選科指導手順の明確化をより具体的にし、職員間で共有することができた。

保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な生徒に対する家庭・学校間の連携と速やかな対応 ・受診勧告者の受診率向上 ・清掃活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの聞き取りおよび状況の把握とスピーディーな支援方法の策定および職員への周知をする。 ・学年団と連携した受診勧告指導の実施をする。 ・要受診者へ個別指導の徹底を図る。 ・日々の清掃活動を通して掃除の大切さの周知を図り、今一度ゴミの分別回収についても意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活行動調査や中学校から引き継ぎのあった個別の支援計画・指導計画をもとに、合格者説明会や入学式後に支援が必要な生徒・保護者と面談を行い、個別の支援計画を立て実施することができた。課題として、支援計画を立てる人数が増えてきているので、それに対応する人数を増やす必要がある。また、年度途中に、中学校から支援計画が送られてくるケースもあるため、支援が必要と思われる生徒については、学校側から中学校に問い合わせる事も必要である。 ・今年度は歯科の結果がよくない生徒に対して、歯科医師の講話と、養護教諭の継続的な受診指導を学年団と連携して行った。そのため、大幅な受診率の向上につなげることができた。ただし、視力の受診率は低かったため、再勧告を続けていく必要がある。 ・ゴミの分別については、その都度周知し、意識を高めることが少してきた。清掃については、特にトイレの使い方がひどく、掃除も不十分である。清掃の仕方を指導する必要がある。
図書部	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用の充実 ・視聴覚関係教室の整備と活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館内の整備及び図書館利用促進のための情報発信を進める。 ・図書選定のための幅広い情報収集をする。 ・視聴覚関係教室・視聴覚教材等の整備、充実を図る。 ・図書委員会の活動の充実をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館・視聴覚室・多目的室の整備を、引き続き継続していきたい。 ・1年生に図書室を利用する生徒がおり、3年生の利用も増えたため、生徒利用者数は少しはあがった。今後も利用者増加に努めたい。 ・時勢を反映し、偏りのない図書選定に努めた。 ・購入希望図書リストの提出について、各学科・教科に積極的に働きかけた。 ・「図書館だよりの作成」や「図書館カウンター当番」の活動に加え、文化祭にも参加し、「バックナンバー放出」や「しおり作り」を実施した。文化祭は、生徒主体で活動することができた。 ・図書報「花木樹」編集にあたっては、一部の内容で誤植があったため、発行までの計画をしっかりと立てていきたい。
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室掲示や校内放送を利用し、情報を生徒に伝える。 ・生徒の意見を積極的に取り入れ、興味・関心を強くもたせる。 ・部活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係生徒の係や部活動の生徒に役割を与え、達成感を醸成することができた。 ・各行事に対して計画的に行うことができた。 ・生徒会だより「春工だより」や生徒会冊子「あゆみ」などで部活動の様子や活動結果を伝えることができた。引き続き部活動の更なる活性化につながる取組を模索したい。
工務部	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の推進 ・専門教育への興味・関心を高める取組(広報活動)の推進 ・安全教育の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を行うために、2年生では各種推進事業を積極的に利用し、インターンシップ等への参加機会を増やす。 ・中学校生徒体験入学を充実させる。 ・学校の施設設備を活用しての公開講座等の実施や情報発信により、ものづくり教育の魅力を伝える。 ・安全教育に対し、意識の見直しや体験を通して、安全教育の拡充を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年において、クラフトマンⅢや技の探究講座に参加した。今後は、より積極的な参加と学年によるキャリア教育の実践を模索する。 ・例年の体験入学とは違いオープンスクールの形にし、体験する企画を増やすことで内容が充実した。参加人数が増えたため、それに対応した改善を図る。 ・関係学科と連携し、近隣の小学校に対し、ものづくり教育を実施した。引き続き、ものづくり教室や中学校教員向けの講習などを企画し、地域に開かれた学校づくりを関係部署と連携しながら実施していく。併せて、保護者にも専門(工業)教育への理解を深めてもらう機会を模索する。 ・危険体験実習や工業安全アドバイザーにより、生徒と教員に安全意識の見直しが行えた。今後も安全教育の拡充を図る。

<p>ロボット工学科</p>	<p>・地域より求められる技術者の育成</p> <p>・教員の指導力向上と実践的なものづくりの奨励</p>	<p>・ロボットシステムインテグレータの育成を進める。</p> <p>・国家資格技能検定シーケンス制御種目(シーケンス制御作業)の指導を通じて、現場で求められる技術者の育成を目指す。</p> <p>・実習や課題研究のテーマを実践的な技術や技能を身に付けさせるものに設定する。また、指導の中で教員が生徒と共に学ぶ姿勢をもつ。</p>	<p>・産業用ロボット実習装置を中心に、シーケンス制御実習、FA実習に加え、新たに導入された協働ロボット実習などの制御系実習と、機械系・電気系実習を組み合わせ、ロボットシステム構築のための基礎技術を身に付けるための実習を行った。基礎的な技術だけでなく、シーケンサなどのFA機器と組み合わせた実習の必要性を感じた。</p> <p>・高校生ロボットSIリーグに参加し、サポート企業との協力で生徒が力をつけることができた。今年度は競技内容が変更され、ロボット周辺のアイデアが重要となり、良いチャレンジができた。</p> <p>・昨年度より、国家資格技能検定シーケンス制御種目(シーケンス制御作業)となり、シーケンス制御がより重視されてきている。資格取得について、普段から呼びかけ周知を図り、生徒の主体的な行動を促し学習意欲の向上につなげることで、生徒が自主的に主体性をもって資格取得に取り組むことができた。</p> <p>・1年次の工業技術基礎のリレーシーケンスに始まり、2年次のシーケンス制御実習とファクトリーオートメーション実習、協働ロボット実習を経て、3年次のロボットシステム実習、電子工作実習まで、制御実習を中心に、機械加工や電気工事などの基礎実習を行い課題研究における探究へ至る道筋をつくることで、教員と生徒が試行錯誤しながら、新たな技術・技能を身に付けることができています。</p>
<p>機械科</p>	<p>・規範意識、帰属意識、自己統制力を高める指導の実践(社会人基礎力の育成)</p> <p>・基礎学力の向上、ものづくりに関する基本的な知識・技能の習得</p>	<p>・教員自ら実践する。(率先垂範)</p> <p>・生徒との人間的な関わりを深める。</p> <p>・個々の生徒に応じた指導をする。</p> <p>・実習集合時の整列点呼及び身だしなみを徹底する。</p> <p>・教員、生徒ともに日々の授業を大切にすることを醸成する。</p> <p>・授業改善を目指す。</p>	<p>・学科内での指導基準を確立し、身だしなみ、授業態度について改善が必要な場合、些細なこともその場で指導してきた。繰り返しきめ細かい指導を徹底し、教員間で共通理解を深める必要がある。</p> <p>・課題研究や実習を通じて帰属意識の向上を図った。生徒個々に役割を与え、明確な目標を設定し主体的な活動に繋ぐための動機付けを行い、組織の一員として貢献できることは何かを生徒自身に考えさせた。</p> <p>・具体的に到達可能な目標を設定し、生徒が自ら進んで学習できるよう指導をした。また、生徒同士がお互いに教え合い、学び合うことのできるアクティブ・ラーニング環境を整備した。</p> <p>・より深い学びの場を資格・検定補習、競技大会の参加を通じて提供した。検定や資格試験へチャレンジする生徒が増え合格率も向上した。外部講師による指導を本年度も取り入れ、より質の高い技術・技能の習得ができた。</p>
<p>電気科</p>	<p>・電気の基礎的な技術・技能を習得させるため、学習に意欲的に取り組む姿勢の育成</p>	<p>・基本的な生活習慣と学習態度の向上を目指すため、資格取得や課題研究を通して、一人ひとりに達成できる目標をもたせる。</p>	<p>・電気の基礎資格の取得により、生徒に自信を付けさせ、更に上位資格に挑戦しようとする気持ちをもたせるよう指導することができた。</p> <p>・2年生の座学・実習においては、第二種電気工事士の合格水準を目標に知識・技能の定着を図りながら進めることができた。</p> <p>・3年生の課題研究において、生徒の自主性と責任感の育成を目指しながら展開した。また、結果重視だけではなく、生徒の取組姿勢や活動状況などの学びの過程に重きをおいた評価方法を実践し、進路に向けた意識を高めることができた。</p>
<p>電子工学科</p>	<p>・生徒が主体的に学べる体制づくり</p> <p>・ものづくり教育の充実</p> <p>・生活コースの充実</p>	<p>・生徒が主体的に学ぶための授業環境づくりの推進を図る。</p> <p>・進路に対する意識の向上を図る。</p> <p>・家庭科や外部と連携を密にし、生徒に対して幅広い学びの場を提供する。</p>	<p>・あいちラーニングなどを利用して授業改善に取り組んだ。教材のデジタル化は進んだが、興味をひくこと、分かりやすく伝えることに重点が置かれ、「主体的な学び」に関しては不十分な部分があるので、改善し続けたい。</p> <p>・日本や愛知県の産業構造を複数科目で伝え、社会の中での個の関わり方を考えさせた。来年度は、科目だけでなく、LT や実習の時間で考えさせる教材に昇華したい。</p> <p>・生徒が自ら授業内容を準備して、教師役として実施する出前授業を行った。</p> <p>・多くの担当職員の協力により情報技術検定の合格率が向上した。一方、第二級デジタル通信の合格者数が少ないため、次年度は工事担任者試験について重点的に対応したい。</p> <p>・講話や実技指導による授業内での外部講師の指導は、思ったように候補日でのスケジュールリングができず、延べ5日間に留まった。次年度は県庁や大学にも範囲を広げて依頼し、働くことと生活のバランスを考える力の育成をより一層推進する。</p>

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校生としての自覚をもった生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や授業規律の確立を図る。 ・HRや学年の全体指導で心を育てる大切さを伝える。 ・部活動への定着率を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や課題等の提出期限を厳守させ、意識付けができた。 ・多くの生徒が誰に対しても大きな声で挨拶ができ、身だしなみを徹底させることができた。 ・教科担任と連携し、授業規律の確立を図ったが、一部で授業規律が守れない場面も見られた。更なる対策が必要となる。 ・多くの生徒が部活動を続けることができた。引き続き部活動の意義をさまざまな場面で伝えていきたい。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向け、自己の能力の向上と主体性のある姿勢の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓である「心を育て 自らを琢く」をもとに、自ら考え、行動できる人間を育てる。 ・1年後の進路を意識して、望ましい職業観を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、時間を厳守する意識を徹底させるとともに、身だしなみを含む学校の規則を守るために、必要に応じて指導を行い、規律を重視した学校生活を送らせることができた。 ・校外学習や修学旅行では、目的を達成するために何が必要かを仲間とともに考え、計画的に行動する経験を積ませた。また、校外活動においては、他者に迷惑をかけないための基本的なモラルや時間を守る姿勢を意識させ、社会性と責任感をもって行動することを徹底させることができた。 ・合同企業展などの行事では、外部の方の話を真剣に聞き、進路選択に必要な情報を主体的に収集させるとともに、自ら考える機会を確保した。加えて、就職活動や進学活動を終えた3年生の講話を通して、将来に向けて何を準備すべきかを明確にさせ、進路意識をより強くもたせることができた。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として自立(自律)できる生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導やHR活動を通じ、健全な社会人としてのあり方を指導する。 ・将来の生き方を考えさせ行動する習慣を身に付けさせる。 ・進路決定までは、業後に基礎学力補習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としての自覚をより高め、あらゆる場面において責任ある行動をとることができるよう指導した。 ・進路指導部との連携を密にし、生徒が積極的かつ主体的に行動しながら適切な進路選択ができるように、個別面談を適宜行い指導した。 ・校内での生活指導を通じ、社会のルールやマナーを教え、人と人のコミュニケーションの取り方などを指導した。 ・就職が厳しくなることが予想されるので、毎日学習する態度を習慣化させ、一定の成果を上げた。
学校安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の削減 ・業務ストレスの軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の定時退校日を設定する。 ・学期に1回のストレス軽減プログラムを計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回の定時退校日は実施できていない月もあった。令和8年度は、定時退校日を細かく設定することが求められているため、月間行事予定などで明確に設定していき、教職員へ周知したい。 ・教職員の勤務終了時や生徒昇降口施錠の案内を自動で放送する取組を行った。教職員の働き方を多少ながらサポートすることができた。 ・長期休業中は、原則的に毎日定時退校日とし、教職員の一定の理解をいただきながら実施できた。 ・年休や割り振り変更等の休暇利用は進んでいるか、割り振り変更消化率向上を目指し、案内などを含めさらに見直しを図りたい。 ・安全衛生委員会の企画として、学期に1回ではなく年度に1回のストレス軽減研修(軽いスポーツ)を実施した。教職員の健康管理やコミュニケーション向上を目指し、安全衛生委員会で計画をしていきたい。
総合評価	<p>学習指導においては、各教科で観点別の評価方法を確立しながら本校の課題を明らかにし、現状に見合う評価方法を検討することができた。引き続き、評価方法の改善を進めたい。</p> <p>生徒指導では、生徒との関係がこじれた事案などは、関係者が関わりながら状況を的確に把握するなど初動体制を大切にすることで、生徒指導が円滑かつ確実に行えるようになった。また、各学年会、各学科、全教職員と保護者との連携・協力を図り、段階を踏まえた適切な生徒指導が行えた。</p> <p>近年、外国で育って日本語が不得手な生徒が増えたことによる指導が課題になっており、そのような生徒の早期把握のため、合格者説明会で行う生活行動調査の内容を状況に応じ改めることで生徒の状況把握が正しく行われるようになってきた。また、相談係・養護教諭によって面談を行い、カウンセラーにつなぐ体制を確立できた。また、双方の連携もうまくできた。</p> <p>進路指導においては、すべての生徒の進路実現に向けて、これまでの進路指導体制を継続するとともに、進路指導部と教務部、保健部等、多方面からのサポートや連携が確立されてきている。社会の変化にも柔軟に対応でき、社会に大きく貢献できる生徒を育てていきたい。</p>		